

今ニューヨークで日本について世論調査を行い、有名な日本人の名前を挙げてくれ、と質問すれば、答えは決まっている。ジュンイチロウ・コイズミではない。その名前はヤンキースの強打者ヒデキ・ゴジラ・マツイであろう。たとえ、最終試合が無安打に終わり、



ジェラルド・カーティス

時代を読む

ワールドシリーズに敗れ、マリリンズが優勝したにせよ、松井の大リーグ一年目はすばらしい。ワールドシリーズ第三戦で、松井は八回にタイムリーを打ち、ヤンキースを救い、レギュラーシーズンでも多くの試合で輝いた。

本社客員

米コロンビア大学教授

た。松井のヤンキースのユニホーム姿や今シーズンの松井の振る舞いは、野球に限らず、日本社会や、日本人と米国人がどのように影響し合っている。最近の日本についての情報がほとんど悲観的であり、国際情勢が荒涼としている時、松井が提供してくれる明るい話題を書くのは実に楽しい。

松井の活躍に思うこと

が、英語で話すとなると、このような「個人主義」を出そうとする人がいる。それは個人主義を尊重する米国人とうまくやるには、「がさつ」でなければならぬと言っている。米国人として、違和感がある。

数カ月間、日本からニューヨークに戻る直前、財務省で働いている友人と食事した。彼は成功者としての経歴を持ち、今も重要な職にある。ところが食事中、突然悲しそうな顔

に現れた。しかし、日本の組織構造は、それ以上の野望を持つ「松井のように」挑戦したい人たちを、容易に受け入れる体制ではない。これはバランスの問題で、戦後に作られたシステムを放棄することはないと